

鬼怒川河川整備計画の目標(案)について

平成27年12月2日

国土交通省 関東地方整備局



- 宅地及び公共施設等の浸水が概ね解消するまでに10日を要した。
- 避難の遅れ等により、多くの住民が孤立し、約4,300人が救助された。

鬼怒川下流域における一般被害の状況

項目	状況等
人的被害	常総市 (死亡2名、重症2名、中等症11名、軽症17名)
住家被害	常総市 (全壊50、大規模半壊914、半壊2,773、床下浸水2,264) 結城市 (半壊11、床上浸水38、床下浸水155) 筑西市 (大規模半壊68、半壊3、床下浸水18) 下妻市 (大規模半壊1、床上浸水58、床下浸水106) つくばみらい市 (半壊13、床上浸水1、床下浸水21)
救助者	ヘリによる救助者数 1,339人 地上部隊による救助者数 2,919人
避難指示等	①避難指示 11,230世帯、31,398人 ②避難勧告 990世帯、2,775人 (※9月29日16時現在)
避難所開設等	避難者数 1,786人 (市内避難所 840人、市外 946人) (※9月18日11時現在)

(茨城県災害対策本部 10月22日16時以前の発表資料より常総市等、関連を抜粋)



屋根からヘリコプターで救助される人
毎日新聞社



常総市役所から駐車場を撮影(撮影日:9/11)
周辺は浸水し、防災拠点の市役所も孤立化。

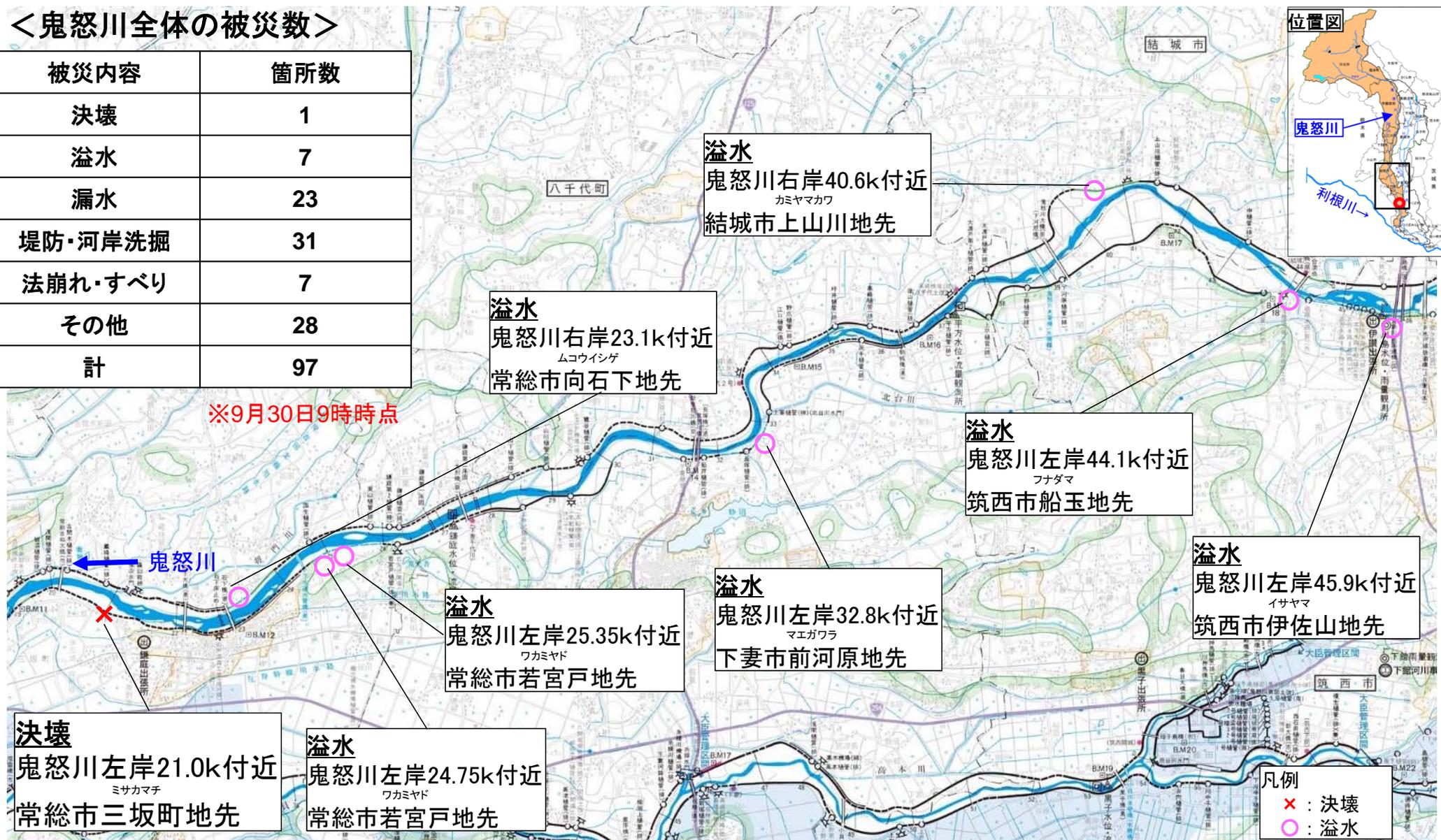


自衛隊員にボートで救出された人たち
毎日新聞社

- 流下能力を上回る洪水となり、7カ所で溢水し、常総市三坂町地先で堤防が決壊(9月10日12:50)。
- ※関東地方の国管理河川の決壊は、昭和61年の利根川水系小貝川以来、29年ぶり

<鬼怒川全体の被災数>

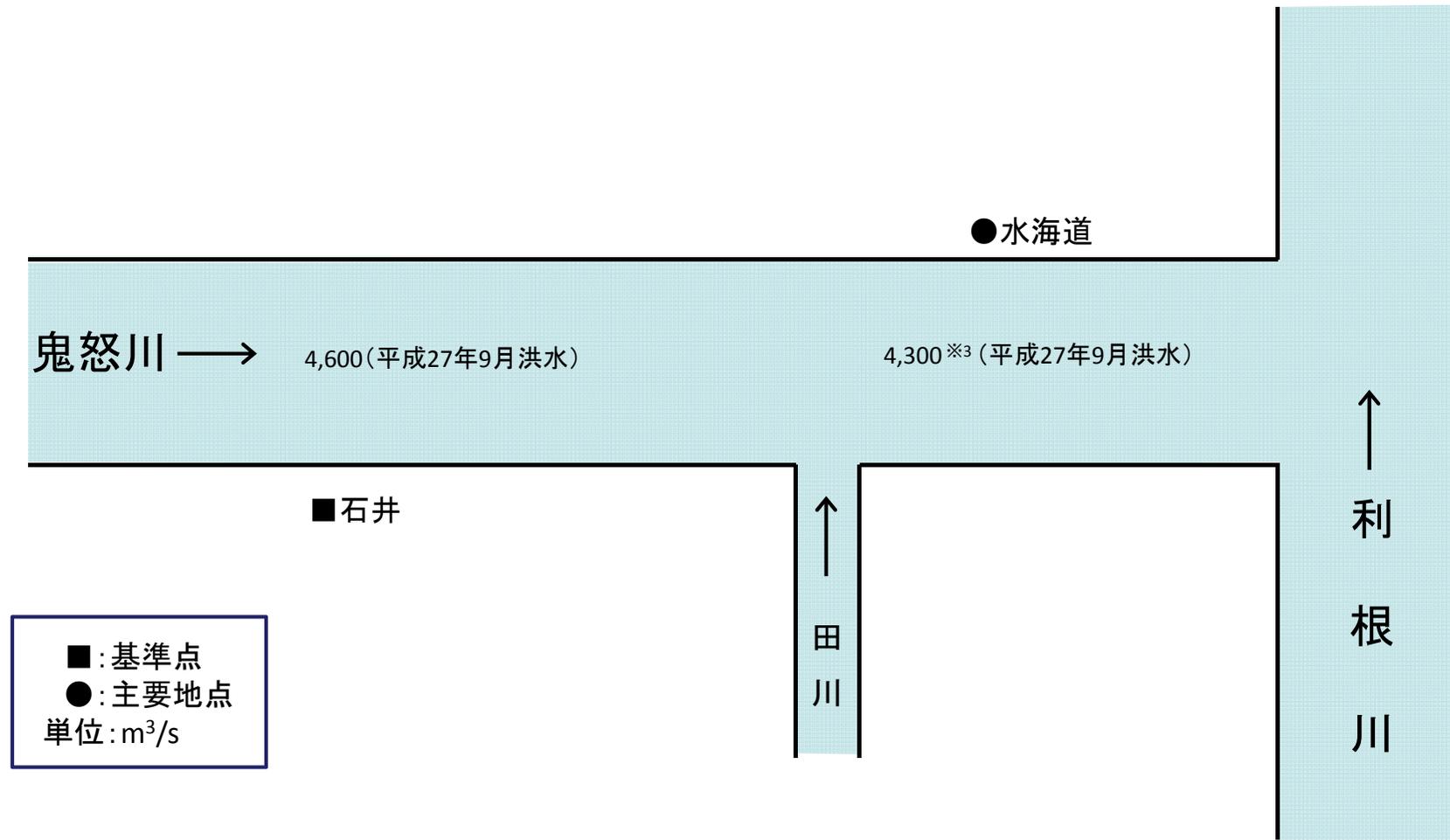
被災内容	箇所数
決壊	1
溢水	7
漏水	23
堤防・河岸洗掘	31
法崩れ・すべり	7
その他	28
計	97



- 常総市三坂町地先（鬼怒川左岸21.0km付近）における堤防決壊等に伴う氾濫により、常総市の約1/3の面積に相当する約40km²が浸水し、常総市役所も孤立した。



- いわゆる直轄管理区間の河川整備計画においては、再度災害の防止という観点から、戦後最大洪水を目標としていることが多い。
- 鬼怒川においては、河川整備計画の目標を基準地点石井において、既往最大洪水となった平成27年9月洪水と同規模の $6,600\text{m}^3/\text{s}$ ※¹ (年超過確率 $1/40\sim 50$ ※²) とし、このうち、河道整備において対象とする流量は $4,600\text{m}^3/\text{s}$ とする。



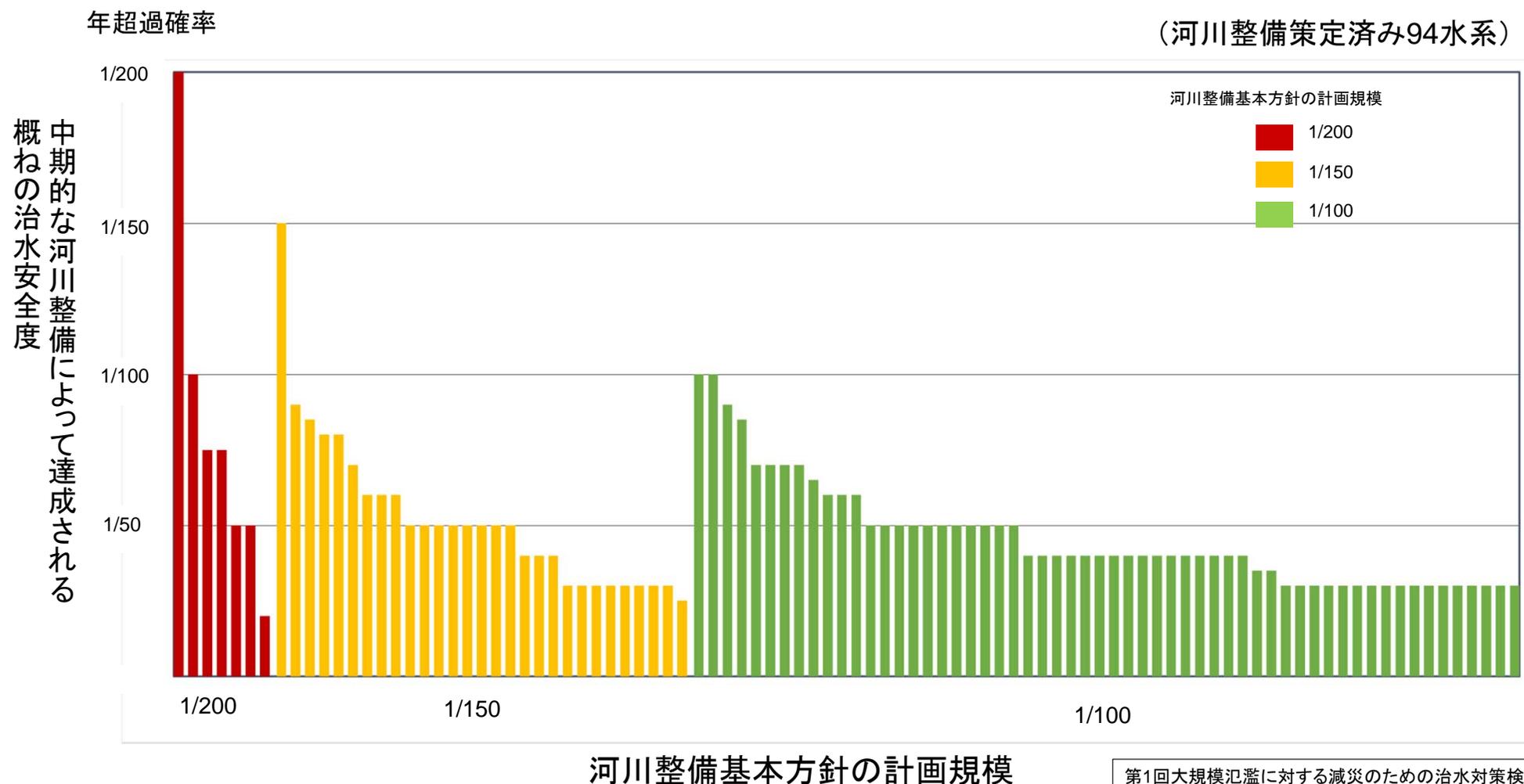
※ 1. 洪水調節施設による調節がない場合の流量

※ 2. 「利根川の基本高水の検証について」(平成23年9月)と同様の考え方により新たな流出計算モデル(「鬼怒川における新たな流出計算モデルについて」)を構築し年超過確率の評価を行った。年超過確率とは毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率を示しています。

※ 3. 氾濫しなかった場合の流量

中期的な河川整備によって達成される治水安全度

- 国管理区間の河川整備計画については、戦後最大洪水または戦後第2位洪水を目標としていることが多く、20～30年間の中期的な河川整備によって達成される治水安全度は多くの河川で概ね1/30～1/50である。



※主要な基準地点における概ねの治水安全度を示している。
 ※整備途上である場合、上流が氾濫することで下流の治水安全度が確保されている場合もある。

第1回大規模氾濫に対する減災のための治水対策検討小委員会(H27.10.30)【資料4】より抜粋